ISAE2025 参加報告

徳永 有輝(東海大院生物科学)

この度，2025 年 8 月 4 日から 8 日にかけて，オランダのユトレヒト大学で開催されました，ISAE 2025（第 58 回国際応用動物行動学会）に参加しましたので，その報告をいたします．まず初めに，本大会の参加にあたり，参加助成を賜りました動物の行動と管理学会の皆様に感謝申し上げます．

初めての国際学会（かつ初海外……）ということで，言語の問題を少しでも解消するために，有名な英語アプリをしっかりやりこんで臨みました．

オランダの肌寒い気候の中，学会初日を迎えました．ユトレヒト大学の扉を開け会場に入った時，会場は人で溢れかえっており，指導教員のＩ先生が「こんなに人が多いのは初めてだ……」と驚くほど参加者が多かったです．開会式では，発表される研究がどのような動物種を対象としているかを示すグラフがスクリーンに映し出されました．私の研究対象であるブタは全体の 25%を占め，本大会で最も多く取り上げられた動物種でした．現在の日本の家畜行動学の分野では，(まだ)ブタの研究者は少数ですが，世界的に高い注目度があることを知り，安心すると同時に，今後さらに研鑽を積んでいかなければならないと強く感じました．

外気温の涼しさとは裏腹に，会場は口頭発表とポスター発表の熱気に満ち溢れていました．私は『LWD 子豚とバークシャー種子豚の授乳期の行動比較』という内容でポスター発表を行いました．ポスターの前に立つと，2，3 人集まってきて質問をしてくれましたが，英語の聞き取りができず……．私の不安そうな顔に気づいたのか，みなさんゆっくりと丁寧に話しかけてくれたおかげで質問を聞き取ることができました．また英語アプリで練習した甲斐もあって，建設的な議論を行うことができました（ありがとう Duoling〇と Spe〇k……）．ポスター発表では，AI を活用した行動観察法の確立を目指す研究が見受けられました．ブタを対象に研究をされていた方々と話をしたところ，「今の技術では AI による完全な行動観察は難しい．特に子豚の行動はおろか個体追跡も難しい」とのことで，まだしばらくは我々の目が仕事の道具となりそうで安堵しました．他のポスターも見てまわり，さまざまな分野の研究者と議論ができ，とても充実した時間を過ごすことができました．

学会の話からは少し外れますが，アムステルダムからユトレヒトへ電車で移動する際，街の景色がビルやレンガ造りの家から牧草地や放牧地へと変わっていくのが印象的でした．ウシやヒツジの群れが草を食んでおり，畜産がオランダの人々の生活に密接に関わっていると感じました．その一方で，どの飲食店にもヴィーガンフードが陳列されていました．また，学会会場の軽食や昼食はほとんどすべてがヴィーガン仕様でした．日本ではまだあまり馴染みがありませんが，味はとても美味しく，多様な文化が共存しているオランダならではだと感じました．

最後になりますが，今回の ISAE の参加を今後の研究活動の糧にして，さらに精進してまいります．ちなみに，来年はインドでの開催だそうです．